

第1学年算数科学習指導案

日時 平成28年9月30日(金)
 学習者 1年生(男5名 女11名 計16名)
 指導者 北田久美子

1. 単元名 たしざん(東京書籍「新しい算数1下」)

2. 単元の目標

◎1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考え理解し、確実にできるようにするとともに、それを用いることができるようにする。

3. 本時の指導

(1) 目標

○既習の加法計算や数の構成を基に、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考えようとしている。**【関心・意欲・態度】**

(2) 評価

○既習の加法計算や数の構成を基に、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考えようとしているか。

評価規準	おおむね満足できる(B)	努力を要する子(C)への支援
	ブロック操作で10のまとまりに着目しながら考えようとしている。	算数ブロックのケースを使って、10のまとまりを意識できるようにする。

(3) 研究主題との関わり

学習者が自分の考えを伝え、学び合うために、本時において次の研究内容に関わる学習活動を実践する。

① 自分の考えを持ち、表現しようとする指導過程の工夫

ア 自分の考えを持たせるための見通しの持たせ方

・既習の加法計算を思い出させ、その後の計算の仕方を考えさせるようにする。

② 「伝え合う」活動を位置づけた指導過程の改善

ア 「伝え合う」活動場面の工夫

・全体交流で、友達の考えとの相違点を考えながら発表したり聞いたりできるように働きかける。

(4) 展開

段階	学習活動	支援と評価(◆研究に関わる支援 ◎評価)	備考
つかむ 15分	1. 未習の計算に関心をもつ。 ・□に1~9の数を入れて、いろいろなたしざんの式を作る。 枠内: ゆかさんはどんぐりを□こ、ひろしさんは□こひろいました。あわせてなんこひろいましたか。 2. 本時の問題を知る。 $9 + 4$ 3. 本時の課題を確認する。 枠内: こたえが10よりおおくなるたしざんのしかたをかんがえよう。	・絵を使って、合併の問題場面を具体的にイメージさせ、加法が用いられる場面であることを確認する。 ・できた式を既習の加法と未習の加法に区別することで、未習の計算への関心を高める。 ・未習のたし算は答えが10を超えそうなことに気づかせる。	挿し絵カード

<p>深める</p> <p>25分</p>	<p>4. 解決の見通しをもつ。 ・ブロックを使って考える。</p> <p>5. 自力解決をする。 ・ブロックを使って答えを出す。</p> <p>・ペアで答えを確かめる。</p> <p>6. 9 + 4のやり方について、考えを発表する。 ・数えたしで全部数える。 ■■■■■■■■■■ □□□□ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 ・数えたしで9から数える。 ■■■■■■■■■■ □□□□ 9 10 11 12 13 ・10のまとまりを作って、 10と3で13 10 3 ■■■■■■■■■■←1 □□□□</p> <p>7. 10のまとまりを作る方法で、他のたしざんの計算をする。</p>	<p>◆既習の加法計算の解決方法を想起させ、ブロックを数えれば答えが出せるという見通しを持つことで、低次の子でも安心して自力解決に取り組めるようにする。 ・ブロックをいくつか出せばいいか確認する。</p> <p>・時間を短くとり、数えたしでやっている子が大変さを感じるようにする。 ・早く終わった子は、答えの出し方をノートに書かせ、自分の考えを整理させる。</p> <p>◆他の考えとの相違点ができるように説明させたり、問いかけたりすることでそれぞれの考えの良さに気づかせていく。 ・10のまとまりに着目した方法をみんなでやってみて、10のまとまりを作る良さに気づかせる。</p> <p>・全員で一つ一つの作業を確かめながらブロック操作をする。 ◎10のまとまりに着目しながら考えることができたか。(ブロック操作・発言・つぶやき)</p>	<p>ブロック</p>
<p>まとめ</p> <p>5分</p>	<p>8. 学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">10のまとまりをつくればいい。</div> <p>9. 振り返りをする。</p>	<p>・本時の学習で分かったことやできるようになったことを確かめる。</p>	

<板書計画>

もんだい

◎ こたえが10よりおおきくなるたしざんのしかたをかんがえよう。

◎ 10のまとまりをつくればいい。

絵

みとおし

ぶろっくをつかう。

ブロック操作

ゆかさんはどんぐりを□こ、ひろしさんは□こひろいました。
あわせてなんこひろいましたか。

児童の考え

児童の考え

児童の考え

しき

9 + 4

